

佳作

木のすばらしさ

京都府 木津川市立城山台小学校四年 山川 輝良里

私は森の中を歩くのが大好きだ。空気がきれいだし、木の良い香りで気分がさっぱりする。虫の声や鳥のさえずりを聞いていると、日常をわすれ、楽しくゆったりした気持ちになる。多種多様な木を見るのも楽しみの一つだ。木は大きな太い根を何本も張りめぐらせ、しっかりと大地をつかんでいる。

この夏は、木にたくさんのお虫が集まっている様子が観察できた。セミは長い口を差しこむようにして木の汁を吸っていた。カナブンは木の汁をなめているように見える。落ち葉を食べている幼虫もいた。そこは、生命力にあふれ、木によって、多くの命が育まれていることを実感する。木々を見てみると、毎回新しい発見があったり、心が清々しくなったりして、木は私の元気の源になる。

このように不思議な力を持つ木は私にとってとて

も身近な存在に感じられる。家の中を見回してみても勉強机やタンス、ピアノなど木製の品は私の大切な生活道具だ。そしていつも私を守ってくれている家も木で建てられている。私はこの家でもとても快適に過ごしている。住み心地がいいのは木造と関係があるのかもしれないと思い、調べてみた。

木材には、湿度の調整をしてくれる性質があるらしい。木は空気に湿度が多いとそれを吸い込み、少ないと放出してくれる。そのため、室内は湿度が一定に保たれ、だん熱効果も高いようだ。木に温かさを感じるのはその性質を持ったためでもあるのかもしれない。そのおんけいを受けているのか、私はあまりかぜを引かない。ようち園時代もふくめて今まで学校を欠席したことがないのは木のおかげだと思う。木の家が私をやさしく包みこんでくれているように、とてもうれしい。

先日、私は奈良にある正倉院を見てきた。これは校倉造と呼ばれる方法で建てられている。よく見ると三角形の木材を上手に組み合わせ、積み上げてかべを作っている。

ここでは木の湿度を調節する機能をうまく使い、千年以上もの長い間、宝物を湿気やかんそうから守

ってきたらしい。私は古くから木のすぐれた機能のうがにんしきされ、使われていたことに感動した。それと同時に、たしかかな木の吸湿性を証明してくれていることがわかった。昔から、人々は生活の中で自然と木を使用し、木と共に生きてきたことがうかがえる。私も受けつがれてきた木の文化を大切にしようとして改めて思った。

私は今、環境問題について学校で学習している。その上でも、木はなくてはならない物だと思う。木は二酸化炭素を吸収することができるので地球の温暖化防止に役立っている。木は植えて育てることができる、再生産可能なエネルギー資源だ。私は木に大きく頼っている人間として環境を守ることは当然だと思う。これからも木を大切に使い、木に感謝し、木について考え続けていきたい。